

議題(1)被災者の住まいの再建 (2)国際スポーツ大会の推進

項目	現 状（これまでの取組、課題等）																								
<p>(1) 被災者の住まいの再建 （恒久的な住まいの確保）について</p>	<p>現在、県全体で仮設住宅等に約9,000世帯（うち熊本市：約5,000世帯）、約2万人（うち熊本市：約10,000人）の被災者の方々が生活されており、一日も早い住まいの再建に向け取り組んでいく必要がある。</p> <p>1 住まい再建の支援</p> <p>○住まいの再建に向けた「4つの支援策」（住宅ローンへの利子助成、転居費用助成など）に加え、今年度、保証人が不在のため民間賃貸住宅に入居できない方への支援を開始し、被災者の住まいの再建を後押ししている。</p> <p>○応急仮設住宅の供与期間について、3年目から4年目にかけては、民間賃貸住宅を再建先とする場合、延長要件がない。 熊本市は、民間賃貸住宅での再建希望者が多く、この一年が再建に向けて重要な一年となる。</p> <p>○今後、高齢者や障がい者など配慮が必要な方々への支援が重要になってくることから、被災者の個々の事情を踏まえながら、一日も早い恒久的な住まい再建に向け、県・市が連携して取組みを強化することが必要。</p> <p>2 災害公営住宅等の供給</p> <p>○熊本市では、被災者への恒久的な住まいの確保として、既存の県営・市営住宅の供給と併せ、災害公営住宅の整備を進めている。</p> <p>○当初の意向調査では自宅再建や民間賃貸住宅での再建を予定されていた方の中で、状況の変化により公営住宅への入居を希望される方も出てきており、この方々への対応が必要。</p> <p>〔 <参 考>仮設住宅等の入居状況(平成30年12月31日現在)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>建設型仮設住宅</td> <td>2,326戸</td> <td>5,519人</td> <td>うち熊本市</td> <td>294戸(13%)</td> <td>641人</td> </tr> <tr> <td>借上型仮設住宅</td> <td>6,463戸</td> <td>14,430人</td> <td>うち熊本市</td> <td>4,575戸(71%)</td> <td>9,649人</td> </tr> <tr> <td>公営住宅等</td> <td>191戸</td> <td>447人</td> <td>うち熊本市</td> <td>125戸(65%)</td> <td>295人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>8,980戸</td> <td>20,396人</td> <td>うち熊本市</td> <td>4,994戸(56%)</td> <td>10,585人</td> </tr> </table> <p>〕</p>	建設型仮設住宅	2,326戸	5,519人	うち熊本市	294戸(13%)	641人	借上型仮設住宅	6,463戸	14,430人	うち熊本市	4,575戸(71%)	9,649人	公営住宅等	191戸	447人	うち熊本市	125戸(65%)	295人	合 計	8,980戸	20,396人	うち熊本市	4,994戸(56%)	10,585人
建設型仮設住宅	2,326戸	5,519人	うち熊本市	294戸(13%)	641人																				
借上型仮設住宅	6,463戸	14,430人	うち熊本市	4,575戸(71%)	9,649人																				
公営住宅等	191戸	447人	うち熊本市	125戸(65%)	295人																				
合 計	8,980戸	20,396人	うち熊本市	4,994戸(56%)	10,585人																				

議題(1)被災者の住まいの再建 (2)国際スポーツ大会の推進

項目	現 状（これまでの取組、課題等）
<p>(2) 国際スポーツ大会（ラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権大会）の推進について</p>	<p>今年は、10月にラグビーワールドカップ、11月～12月に女子ハンドボール世界選手権大会が熊本で開催される。これらの国際スポーツ大会を成功させるため、県・市が連携して取り組んでいく必要がある。</p> <p>1 大会成功に向けた機運醸成、誘客対策</p> <p>○ラグビーワールドカップと女子ハンドボール世界選手権大会に向けた準備を着実に進めるため、県・市による「熊本国際スポーツ大会推進事務局」を県庁内に設置し、連携して取組みを進めてきた。</p> <p>○様々な広報媒体による情報発信と併せ、大会のプレマッチとなる国際試合の開催や、1年前のタイミングを見据えたイベント等の実施により、大会の機運醸成を図ってきた。</p> <p>○2つの国際スポーツ大会を成功させるため、さらなる機運醸成を図ることが必要。また、ラグビー6万人、女子ハンド30万人という観戦者数の目標達成に向けた誘客対策や、国内外からお越しになる皆様へのおもてなしについて、県・市が連携して取り組むことが必要。</p> <p>【現時点で予定している具体的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①観戦者6万人プロジェクト、30万人プロジェクトの推進 ②学校における「一校一國運動」の展開 ③熊本城の特別公開、周辺文化施設の連携 ④会場や観光地へのアクセス道路の景観改善 <p>2 大会のレガシーの承継</p> <p>○大会の成功を一過性のものとせず、その効果を大会後へも波及させる取組みが必要。</p> <p>○現在、阿蘇くまもと空港の整備、熊本駅舎の建替えと駅ビルの開発、八代港の整備など熊本の利便性を大きく向上させる陸・海・空の玄関口が整備されるとともに、桜町地区における熊本城ホールの整備など都市再開発も進んでいる。</p> <p>大会で得た経験や知識を活かし、さらなるインバウンドの拡大や国際的なMICEの誘致につなげることが重要。</p>